

「パートナーシップ構築宣言」

当社は、サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築するため、以下の項目に重点的に取り組むことを宣言します。

1. サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける（「Tier N」から「Tier N+1」へ）ことにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。その際、災害時等の事業継続や働き方改革の観点から、取引先のテレワーク導入やBCP（事業継続計画）策定の助言等の支援も進めます。

（個別項目）

a. 企業間の連携

- ・ 工事及びサービスの取引先と「安全衛生協力会」を組織し、安全衛生、品質、関連法令などの情報共有を図り、連携を深めています。
- ・ 機材の取引先を中心に「購買分科会」を開催し、取引先企業を訪問した勉強会の実施や法改正等の情報共有等、社会の変化に対応した業務フローの相互理解を深めています。
- ・ サービス技術センターを設立し、サービス協力会社の技術継承、事業継承を想定した人材育成支援に取り組んでいます。

b. IT 実装支援

- ・ データの相互利用、協力会社の要望を反映したサービス業務システムの改修、協力会社ポータルサイトの拡充等を通じて、サービス協力会社の業務効率化の支援に努めています。

c. グリーン化の取組

- ・ 当社が提供する設備システムについて設計段階から温室効果ガス排出量削減のため、お客様との協働により、省エネルギー性能の高い設備システムの提供に注力しています。また、カーボンニュートラル（CN）プロジェクトを組織し、自社でのCN提案事例や市況、他社動向等の情報発信を行い、社員のCN提案力向上にも努めています。
- ・ フロン再生・再利用促進の全国展開、レトロフィット、洗浄、省エネ商材の拡販等を通じて、環境保全、循環型経済と事業の両立に努めています。

2. 「振興基準」の遵守

親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行（下請中小企業振興法に基づく「振興基準」）を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

①価格決定方法

不合理な原価低減要請を行いません。取引対価の決定に当たっては、下請事業者と少なくとも年に1回以上の協議を行うとともに、下請事業者の適正な利益を含み、下請事業者における労働条件の改善が可能となるよう、十分に協議して決定します。その際、「労務費の適切な転嫁のた

めの価格交渉に関する指針」に掲げられた行動を適切にとった上で決定します。また、原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指します。なお、取引対価の決定を含め契約に当たっては、契約条件の書面等による明示・交付を行います。

②手形などの支払条件

下請代金は可能な限り現金で支払います。手形等で支払う場合には、割引料等を下請事業者の負担とせず、また、支払サイトを 60 日以内とします。

③知的財産・ノウハウ

「知的財産取引に関するガイドライン」に掲げられている「基本的な考え方」や、「契約書ひな形」を踏まえて取引を行い、片務的な秘密保持契約の締結、取引上の立場を利用したノウハウの開示や知的財産権の無償譲渡などは求めません。

④働き方改革等に伴うしわ寄せ

取引先も働き方改革に対応できるよう、下請事業者に対して、適正なコスト負担を伴わない短納期発注や急な仕様変更を行いません。災害時等においては、下請事業者に取引上一方的な負担を押し付けないように、また、事業再開時等には、できる限り取引関係の継続等に配慮します。

2025 年 5 月 1 日

株式会社ダイキンアプライドシステムズ

企 業 名

取締役社長 三品 孝

役職・氏名（代表権を有する者）